

2026年(令和8年)8月6日(木曜日)

大型木造建築物を支える技術者の熱意

北鹿地域では、地域の未来を支えるものづくりの現場で多くの若者が活躍しています。中でも、当校を修了し、地元産業に深く根ざしながら

ら、全国規模の仕事に携わる修了生の姿は、地域で働くことの魅力を私たちに教えてくれます。

今回は、木材産業の最前線で活躍する修了生の姿を通して、彼らがなぜ地元での就職を選び、どのようなやりがいを持っているのかをひもときます。

学校、公共施設などの大型木造建築物にも数多く採用されています。

多岐ある仕事の中から地元での就職を決定打となったのは、在学中に参加した同社のインターンシップでした。

五十嵐さんの主な業務は、木造建築の柱や梁(はり)を加工機で正確に切り出すための「加工データ」を作成することです。3次元CADを駆使して木材の位置を設定して穴や継手の位置を測定していくほか、工場であらかじめ取り付ける既製品金物の手配、現場施工時に必要となるボルトやドリフトレインの準備、さらには現場での木材を正確に使用するかを明記した「合番図(あいばんず)」と呼ばれる重要な図面の作成まで、その仕事は多岐にわたります。

こうした高度な技術を要する現場で大きな支えとなっているのが、学生時代に当校で培った実践的な学びです。総製作実習(卒業研究)では、3次元モデルを作成できるソフトウェアを活用しながら、実際に自分たちの手で東屋(あずまや)を制作しました。図面から3次元モデルを起し、隅木と梁の接合部分を立体的に確認しながら墨出しや加工、組み立てまでを一貫して行った経験は、平面図から立体を構築していく現在のCAD業務へダイレクトにつながっています。また、学生時代に学んだ3次元CADや3



株式会社キータック 釈迦内工場
五十嵐 翔さん
(東北能開大秋田校住居環境科 平成29年卒)



3次元CADで加工データを作成する五十嵐さん



秋田職業能力開発短期大学校 住居環境科 松岡 昌

次元CADの技術も、実務をスムーズに進めるための強固な土台となっています。北鹿地域で働くことには、大都市圏にはない独自の魅力があります。豊かな自然に囲まれた心地よい環境の中で、通勤や日々の生活の負担を少なく抑えられるため、仕事とプライベートのバランスを非常に良好に保つことが出来ます。それでいて、手掛ける仕事は地元にとどまらず、全国規模の大型木造建築プロジェクトにつながっています。自分がデータを作成し、工場の仲間と共に作り上げた木材が日本中のどこかで建物となり、何十年も形として残り続けること。そのスケールの大きさと地域社会を支えているという誇りが、日々の大きなモチベーションとなっています。地域の皆さんが何げなく利用している美しい木造建築の背景には、このような地元に愛し、高い技術を持つて挑戦を続ける若き技術者たちの熱意が存在しています。